## ~「エルトゥールル号」って知ってますか?①~

ウクライナ情勢・・・・・・・・・・・その動向を世界が注視していますが・・・

1985年3月12日。イラク軍によるイランの首都テヘランへの空爆が始まった。

さらに・・・イラクのフセイン大統領(当時)は3月17日、声明を発した。

「3月19日20時半以降は、イラン上空を飛ぶ全ての飛行機を打ち落とす!」

大変なことになりました。**残された時間は2日、48時間**。しかし、イランにいる日本人には脱出できない 状況に追い込まれていたのです。

## ·LAST 48hrs

イランにいる他の国の人たちは、それぞれの国の軍隊の協力で脱出。しかし当時の日本はイランとの 定期便を持っておらず、自衛隊が海外で活動できる法律もなかった。

日本は他国に応援を求めるが、どの国も自国の国民の救出に手いっぱいであった。

·LAST 24hrs

在イラン日本人 200 名以上は脱出方法が見つからずにいました。 あと 24 時間。・・・これまでか! 戦場と化したテヘランに日本人は閉じ込められました。

イランの日本大使館の野村豊大使はそれでもあきらめず、トルコ大使館のビルレル大使に助けを求め に行きました。しかしどう考えても、無理です。トルコの自国民もまだテヘランに残っているのです。 万策尽きた・・・・。

ところが、トルコ側の答えは「イエス!」でした。自国民を危険にさらすことになるのに、2機の航空 機をテヘランへ派遣してくれることになったのです。トルコ航空では、即座にこの危険なフライトをし てくれるパイロットを募りました。

すると・・・その場にいたパイロット全員が志願してくれたのです。

しかし・・・まだ問題が残っていました。日本人がどこに避難しているか分からない。連絡がとれな い。そうこうしているうちに残り24時間となった・・・。

その時、一人の日本人が立ち上がった。

## 「俺がみんなを探してくる!」

空爆の危険の中、彼は街へ走り出した。他の大使館員たちも寝ずに動き、ついに連絡が行き渡った! そして、2機のトルコ航空に、2 | 5人の在留邦人が乗り込みました。

飛行機には、命を懸けて救出に来てくれたトルコのクルーたちが待ってくれていました。

「仕事とはいえ、戦火をくぐって人を助けにいくなんて・・・・

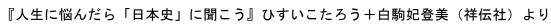
相当不安だったと思います。

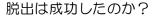
見知らぬ外国人を助けるのに自分の命をかけられるものなのかと ・・・・胸が熱くなりました。」

乗り込んだ日本人はそうコメントを残しています。

·LAST 4hrs

しかしまだ油断できません。残り4時間でイラン領から脱出しな ければいけない。時間との戦いです。(つづく)





なぜトルコは航空機の派遣をしてくれたのか?

タイトルのエルトゥールル号って?・・・・**あれっ・・・・・どこにも出てきてないやん!** 

通心(信)初の・・・・「**つづく」**です。・・・・・ ・・・・・・・・続きは明日!

